

一般質問

萩原 弘之

〔民主クラブ〕

高齢者世帯の安心安全は

問 高齢者緊急通報システムの考え方について。

答 現在の利用状況は25年度は234台と近年横ばいとなっており、通報件数は75件となっており。安心して生活できる環境確保のためにも広く周知すると共に、地域の方や介護サービス事業者にも協力を頂き利用拡大を図っていく。

問 緊急通報のための機器拡充による利用促進は。

答 高齢化と核家族の進行により、高齢者単独世帯が増加してきている。急病や火災などの緊急時の通報や認知症による事故を防ぐためには、家族や親族による支援が基本である。また地域において支え合える体制作りも重要である。

近年通報システムは多くの機能を兼ね備えた機器も開発をされているが、基本的な考え方を推進しながら、重層的な見守

り・安否確認を行う。



緊急通報システム

富良野市農業及び農村基本計画は

問 農業から見た農村観光に対する考え方は。

答 第5次富良野市総合計画において、「多様な業種が連携して農村の魅力伝える観光のまちづくり」を個別目標に掲げ、農業と観光業が連携を図ることにより環境に優しい観光地づくりを形成してきている。現在の農業生産の環境及び生活環境が整えられてきたことが、農村景観や富良野ブランドなどを支えていることから、農村景観・食観光・農業体験・農村生活環境の維持向上を図っていく。

大栗 民江

〔公明党〕

ふるさと納税の積極的なPRを

問 ふるさと納税は、積極的に取り組んでいる自治体とそうでない自治体とは、寄附金額に差が生じている。本市は、平成

22年度24万5千円、平成23年度28万円。ホームページや寄附金募集案内の改善を行うべきでは。また、「富良野市ふるさと応援寄附金」のような名称を冠してPRの充実を図るべきでは。

答 市では、「条例制定及び基金の設置等を行わず一般寄附金として取り扱う」「特典を設けての募集は行わない」を基本にしており、今後もこの考え方で進めていくが、市のホームページは、分かりやすくしていく。

特典の充実を

問 市外の寄附者に、ワインやチーズ等を送付しており、ホームページではつきりと紹介し、市民も知人等に紹介できるように情報提供をするべきではない

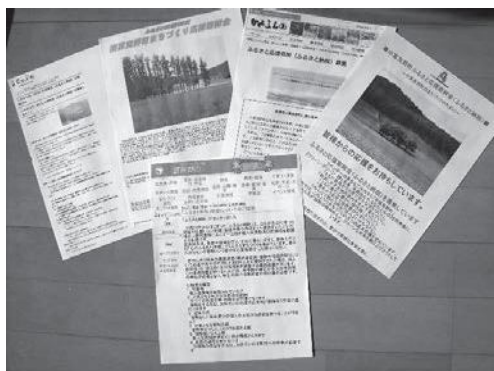
か。知名度がある富良野の財産を活かした特典の考えは。

答 現在「寄附に対する市として謝意をあらわすもの」として「ふらのワイン」を贈呈しており、特典の充実について、これを変える考えはない。富良野のまちづくりの紹介に努める。

子育て少子化対策の財源に

問 上士幌町では「上士幌ふるさと納税・子育て少子化対策基金」を制定し、子育て関連事業に活用されている。本市の女性や人口が減少する中で、ふるさと納税を子育て少子化対策の財源として募集する考えは。

答 事業を特定しての募集は考えていない。



本市と沿線のふるさと納税情報